

京都市の方針

◆京都市の幼保小の架け橋プログラムのねらい

- ・架け橋期は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期であると捉える。
- ・子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分ごととして連携・協働し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、保育・教育の質的向上を目指す。
- ・各小学校及び就学前施設の子どもや連携・接続の実態、地域や保護者の実態に沿って、架け橋プログラムの推進を図る。

◆全市立小学校での実施

- ・令和7年度から全ての市立小学校で幼保小の架け橋プログラムを実施する。
- ・連携・接続の範囲は、小学校区内を原則とする。
(小学校は自校の校区内に所在する就学前施設との連携・接続に取り組む。)

⇒ 地域ぐるみで進める連携・接続



◆新たなコミュニティの構築

- ・小学校及び連携する就学前施設の管理職や主任、担任等が普段から「子どもたちの保育・教育」について話ができる風通しのよい関係づくりを図る。

◆地域の目指す子ども像の実現に向けた相互理解と保育・教育の質の向上を図る

- ・京都市では、架け橋期のカリキュラムの作成を必須とせず、架け橋期の子どものためにじっくりと話し合い、理念を共有することを最優先させる。
- ・目指す子ども像やそれを実現するための教育活動の在り方の共有などの協議を重視する。
- ・相互理解のための保育・授業参観を伴う合同研修会や互恵性のある子ども同士の交流の充実などにより、保育・教育の質的向上を図る。



地域ぐるみで進める幼保小の連携・接続の京都モデルを目指して

京都市では、幼保小の架け橋プログラムの趣旨や「京都市の方針」に則り、令和7年度から各小学校区の実態に合わせた幼保小の連携・接続の充実を図ります。

まず、小学校と地域の就学前施設が、それぞれの立場を越えて、子どもの育ちを基に話し合うことから始めましょう。幼保小の連携・接続を推進するためには保護者や地域の理解と協力も必要です。保護者や地域とともに取り組んでいきましょう。

